

アイロンのおなはし

◆火のし

なべ ぶぶん すみび い
鍋の部分に炭火を入れて、アイロンのよう

つか
に使いました。火のしはのんびりしすぎると、

こ あつか むずか
焦げてしまうので、扱いが難しかったそう。



◆焼きごて (こて)



せんたん きんぞくぶぶん すみび ねっ い
先端の金属部分を炭火などで熱してから、衣

ふく
服にあててしわを伸ばしていきます。火のしと

おな ちよくせつ ちからかげん むずか
同じように直接あてるので、力加減が難しかった

たそうです。

◆炭火アイロン

なかな ねっ すみ ねっ
アイロンの中に熱した炭をいれて、その熱

ほんたい おも
と本体の重さでしわを伸ばしていました。

めいじじだい つた いっぱんかてい ふきゅう
明治時代ごろに伝わり、一般家庭にも普及

していきましたが、でんき どうじょう
していきましたが、電気アイロンの登場で、

しだい つか
次第に使わなくなっていきました。



いま でんき むかし
今は電気だけど、昔は
すみ
炭であたためたものを
つか
使っていたんだね。



◆電気アイロン



でんき りょう はじ おん
電気を利用したアイロンで、始めのころは温

ど ちようせつ しだい おんどちよう
度は調節できませんでしたが、次第に温度調

せつ さ
節ができるようになり、コンセントを指すだけ

つか
で使えるようになりました。

